

第6回「あいち就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム」会議  
結果概要

1 2021年度の主な取組状況

構成機関・団体		取組の概要	実績等
全構成機関・団体		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職氷河期世代を対象とした限定求人・歓迎求人や、就職面接会等への積極的な参加の勧奨を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特設 HP、Facebook や LINE 等の SNS を活用した事業周知等</li> </ul>
愛知労働局		<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省就職氷河期世代活躍支援ポスターや愛知労働局独自のポスター等の展開</li> <li>・就職氷河期世代への正社員職業紹介</li> <li>・特定求職者雇用開発助成金、キャリアアップ助成金等各種助成金の支給</li> <li>・地域若者サポートステーション(サポステ)の取組強化</li> <li>・就職氷河期世代の就労支援に関する連携協定の締結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県内のスーパー72店舗に掲示(10月)</li> <li>・職業紹介件数：29,826件 正社員就職件数：4,926件</li> <li>・助成金支給実績：3,408件 助成金活用による正社員化：1,712件</li> <li>・サポステ新規登録者：534人 就職件数：317件 定着支援：1,330件</li> <li>・西尾市とハローワーク西尾との連携協定の締結(1月28日)</li> </ul>
愛知県	労働局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアコンサルタントや臨床心理士等による個別相談を実施</li> <li>・就職氷河期世代就職支援事業の実施</li> <li>・就職氷河期世代のデジタル人材を育成する雇成型訓練の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数：1,500件 (あいち若者職業支援センター)</li> <li>・参加者数：84人 正規雇用決定者数：13人</li> <li>・訓練修了者数：10人 訓練修了者の就職決定数：7人</li> </ul>
	福祉局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知県社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付への補助</li> <li>・市町村プラットフォームとの連携</li> <li>・生活困窮者自立支援事業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助額：48,743,000円</li> <li>・市町村プラットフォームにおける就労準備支援事業の好事例及び地域課題の収集等</li> <li>・就労準備支援事業 新規支援者数：30人 家計改善支援事業 相談件数：55件</li> </ul>
	保健医療局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各町村の相談窓口の現状や課題等を把握するため市町村支援員等によるヒアリングの実施</li> <li>・個別支援会議への参画</li> <li>・多職種専門チーム検討会議の開催</li> <li>・市町村の支援者等を対象とした研修会を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリング実施：16町村</li> <li>・個別支援会議：4回</li> <li>・開催日：5月14日、2月22日</li> <li>・基礎研修・専門研修・指導者養成研修の開催：参加者98人(10月7日オンライン開催)</li> </ul>

## 2 2022年度の主な取組予定

- ・メディア、SNS、会報誌やコンビニ等あらゆるルートを通じた積極的な周知広報の実施
- ・就職氷河期世代限定求人や歓迎求人の開拓・確保
- ・就職氷河期世代の非正規雇用労働者に係る正社員転換の積極的な働きかけ
- ・紹介予定派遣制度を活用した職場実習等による就職支援の実施
- ・基礎レベル以上のITスキル保持者を対象とした、デジタル人材を育成するための雇用型訓練の実施
- ・テレワーク機器の貸出によるテレワークの試行支援の実施
- ・ICT等の活用により職場環境を改善し、若者の職場定着率が向上した企業の事例集を作成するとともに、企業経営者を対象としたセミナーの開催

## 3 講演「氷河期世代の多様な実情～ひきこもりからミッシングワーカーまで～」

(講師：愛知教育大学 教育学部准教授 川北稔氏)

- ・ひきこもりの方に対しては、部屋に閉じこもっているというイメージが先行しているが、実際は病気を抱えていたり、経済的に苦しかったりと様々な背景がある。そのため、きめ細かな支援が必要になる。
- ・ひきこもり支援については、就労支援や居場所作りという2択だけではなく、ボランティア活動等を通じて社会との距離を縮めるというアプローチもある。そのような活動を通じて、最終的に就労へと結びつくという方もいる。
- ・ミッシングワーカーとは、仕事に対する意欲があるにも関わらず、いつの間にか世の中から遠ざかってしまった方というイメージである。就職氷河期世代にもミッシングワーカーの方は多くいるのではないかと。

## 4 事例紹介

### (1) 豊明市

- ・豊明市では、平成30年度から市社会福祉協議会に業務委託して、ひきこもり相談窓口「はばたき」を設置している。そこで、ひきこもりの方への支援を実施している。
- ・「はばたき」では、義務教育を終えた15歳からおおむね64歳までの方を対象に、相談支援や居場所支援等を行っている。また、必要に応じて精神保健福祉士やファイナンシャルプランナーによる専門相談も行っている。
- ・来年度も引き続き、ひきこもりに係る地域課題の解決に向けて、一人ひとりに合わせた就労支援や就労に限らない多様な社会参加への取組を実施していきたい。

### (2) 西尾市

- ・西尾市では、一般社団法人パーソナルラボに業務委託し、ひきこもりの方等を包括的に支援するための相談センター「コンパス」を設置。潜在ニーズが当初の想定よりも多く、令和4年度は予算を2倍に増やし、相談員を4人に増員して運営にあたる。ここでは、LINE相談やマイクラフト(オンライン空間を活用したゲーム)を活用したりと、オーダーメイドの伴走型の支援を目指している。

- ・1月28日にハローワーク西尾と全国初となる就職氷河期世代の就労支援に関する連携協定を締結した。これにより、ハローワークとの連携が密になり、実際、ひきこもりの状態から就労へと結びついた方もいる。

### (3) あま市

- ・あま市では、就労支援事業だけではなく就労準備支援事業や家計改善事業を一体的に実施することで、時間をかけながらも一人ひとりに寄り添った支援を心がけている。
- ・家族以外との交流のないひきこもりの方について、本人の話をしっかりと伺いながら、関係機関と連携して支援を実施したことで、就労準備支援事業に結びついた方もいた。

## 5 意見交換

- ・就労訓練事業について、体験先の事業所がどのようにひきこもりの方と接したらよいかわからず、ひきこもりの方を傷つけてしまうこともある。また、ひきこもりの方やその家族への継続した支援も必要である。(NPO 法人なでしこの会)